

日本映画衛星放送株式会社 第39番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成26年5月13日(火) 15時～16時
2. 開催場所 : 東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル15階
日本映画衛星放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席 : 委員総数 8名 / 出席委員数 8名
出席委員(順不同、敬称略): 菊地 実・鈴木 嘉一・川本 三郎・坂井 保之・
曾根 和子・田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正
放送事業者側出席者: 常務取締役 酒井 彰
編成制作局長 宮川 朋之
編成制作部長 澤 尚志
番審担当 堤 靖芳
清水 明(記)

4. 議題(1) 審議事項

日本映画専門チャンネル「日本映画レトロスペクティブ」について。

(2) 報告事項

時代劇専門チャンネル「高橋英樹『桃太郎侍』祭り」について。

5. 議題(1) 概要

2011年9月、日本映画専門チャンネルでは、企画特集「日本映画レトロスペクティブ」をスタートした。公開から10年以上経ち、日本映画界に大きな衝撃をあたえた名作・話題作を、出演俳優が語るエピソードと共に毎月お届けする番組である。しかし、それに見合う視聴者への告知、宣伝を十分に出来ていないなどの反省もあり、4月の改編を以って番組を一旦休止した。けれども、ゲストトークによる新たな切り口・見方・情報とともに、名作をあらためてご覧いただくこと自体は、今も意味ある企画だと考えており、この秋の番組再開を計画している。ついては1月放送『魚影の群れ』(1984年・相米慎二監督作品)の回をご覧いただき、以下についての審議を行った。

◇これまで放送してきた番組は、日本映画専門チャンネルの視聴者や映画ファンにとって魅力的であったと考えられるか。また、番組を見て、気になる点、反省すべき点などはどういった点か。

◇将来再開する番組に対する、希望、提案、意見等をお聞かせ願いたい。

6. 議題（1）審議内容

- ・映画の前と後に番組を付ける形式は良いと思うが、「レトロスペクティブ」という名称が分かりにくい。番組を再開するのであれば、新しいタイトルを考えるべきだ。
- ・トークによって監督のマジックとも言うべき演出術を垣間見ることが出来て、興味深かった。しかし、放送した映画のラインナップを見ると、番組としてのポリシーが見えない。再開する番組では、脚本家など、俳優以外の関係者を登場させても良いと思う。
- ・非常に面白かった。DVDには特典映像があるものだが、そうした面白さがこの番組にはある。登場した佐藤浩市の記憶が正確で、各エピソードに発見があり、魅力的だった。
- ・長い映画(144分)の後に、40分の解説があるというので、見る前は気が重かったが、面白く見る事が出来た。ゲストは有名俳優だし、トークの中身は濃いし、企画として豪華な番組だと思う。しかし、毎回そう感じるとは考えられず、必ずしも映画本編が本当に要るのか？とさえ考えた。笠井アナウンサーについては、演出的に弾け過ぎた気がする。
- ・前解説、映画本編、後解説と、全ての質が高く、それぞれに良かった。しかし、前解説にはもっと映画本編に対する期待感を高める演出があつて良いと思う。内容的に前解説と後解説のボリュームを逆にして、本編前にもっと映画について語って見せるという方法もあるだろう。
- ・佐藤浩市という俳優が好きになった。だが、この映画は好きになれない。大衆が理解しやすく、楽しめるエンターテイメント映画を取り上げていくべきだ。とはいえ、専門チャンネルらしいこうした企画があることは良いと思うし、続けていくべきだ。
- ・俳優をゲストに映画に寄り添う今の番組づくりで私は良いと思う。ただ、過去の作品ラインナップを見ると、エンターテイメント映画が少ないので、食わず嫌いで番組を見ない視聴者が多いのではないか。
- ・この番組はずっと見ていた。映像の記録集として非常に貴重だと思う。ただ、正直面白くなかった回もあり、それは笠井アナウンサーが話を掘り下げきれていない時だ。スタッフがもっと詳細情報を準備し、収録前に笠井アナウンサーに渡しておいてはどうか。

<事業者回答>

- ・番組タイトルについては、確かにわかりづらいと思うので、番組再開に向けて今後検討していきたい。番組のテーマや切り口を分かりやすくすべきだ、というご意見については、私どももそう考えており、テーマのハッキリしたミニシリーズにして番組を再開したいと考えている。本編前解説をもっと充実させては？という提案については、視聴者からの苦情が予想されるので難しいが、前解説に期待感がない、というご指摘は重く受け止め、これからの番組制作の中で対応を考えたい。
- ・映画はチャンネル持ち回りの面があり、こうした番組は差別化のためにも重要だと考えているし、継続していく。しかし、番組のスタンスをもっと明確にしなければいけない。俳優が出演作を語る完全に独立した番組にしても良いかもしれない。

7. 議題（2）報告事項

時代劇スター・高橋英樹の代表作である人気時代劇ドラマ「桃太郎侍」が、2014年6月に時代劇専門チャンネルに初登場する。痛快娯楽時代劇の金字塔ともいべき全258話だ。チャンネルでは、「桃太郎侍」スタートを盛り上げるため、「高橋英樹『桃太郎侍』祭り」と題し、「桃太郎侍」に合わせて様々な関連番組を6月に編成している。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、2014年7月8日開催。